

第6回CHUBU懇話会の報告

田口 悟朗

中部支部では、産学官交流活動や学生に対する教育活動の一環として2012年度から毎年「CHUBU懇話会」を開催しています。今回、ホクト株式会社のご協力により、2017年9月29日に同社青木鳥きのこセンター（長野市）において第6回CHUBU懇話会を開催いたしました。長野は中部支部各県から遠く、支部の行事になかなか人が集まりにくいのですが、幸い、会場の定員を超える31名の方（うち、学生11名）に参加いただいで盛会となりました。

はじめに、青木鳥きのこセンターの横山所長から、同社におけるきのこ製品の開発やきのこ栽培について説明いただきました。特に、菌糸を生育させたあとの菌掻き（菌糸が蔓延した培養瓶の培地表面を削って子実体原基を同調的に形成させる）など、きのこを発生させる工程に興味を持たれた方が多かったようです。きのこ栽培の知識を入れたところで、隣接するきのこ栽培工場を見学通路からガラス越しに見学しました。きのこ栽培の見学は初めてという参加者も多く、栽培棚一面にエリンギやヤマブシタケが並ぶ光景に一同興味津々でした。ここでも、きのこの子実体ができる条件や栽培管理の方法などに質問が集まっていました。見学後には、瓶栽培したエリンギを手で収穫する「もぎ取り体験」を楽しみ、それぞれのお土産としていただきました。

続いて、長野県で活躍されている3名の講師の方々にご講演いただきました。

- ・稲富聡氏（ホクト（株）きのこ総合研究所所長）「ホクト（株）のきのこで菌活」—きのこ栽培の歴史と、きのこ健康に関する研究成果の紹介—
- ・新井亮一氏（信州大学繊維学部准教授）「人工タンパク質ナノブロックによる超分子複合体ナノ構造の創出」—*de novo*でタンパク質を設計し、レゴブロックのように組み合わせる構造を作る取り組みの紹介—
- ・蟻川幸彦氏（長野県工業技術総合センター 食品技術部門長）「発酵長寿県NAGANOの酒」—日本酒やワインなど、「酒」のブランド化に関する長野県の様々な取り組みの紹介—

いずれのご講演も興味深く、あっという間に時間が過ぎていきました。

講演終了後にバスで長野駅まで移動して、懇親会を開催しました。こちらにも25名が参加し、「NAGANOの酒」を囲んでお互いの交流を深めました。

最後に、懇話会の開催を快くお引き受けいただいた、稲富研究所長、横山所長をはじめとするホクト株式会社の皆様、講演者の皆様、ならびに遠路お越しいただいた参加者の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。



図2. 講演会の様子



図1. エリンギの「もぎ取り」体験



図3. 懇親会